

GWは旅行・買い物・芸術鑑賞にフルートの練習、もしくはお家で思う存分ゴロゴロしたり…。皆様それぞれの楽しみ方して過ごされたのではないのでしょうか？梅雨入りまであと一ヶ月ほど。晴れの日を思いっきり楽しんでください。

#会報係の交代【重要】

5月11日(日)の総会で、会報係チーフの交代(三尾さん→谷川さん)が承認されました。演奏会情報の連絡先が変更になりますので気をつけてください。谷川さんのアドレスは以下のとおりです。

会報係チーフ(谷川さん):qzb03677@nifty.com

#星島明郎顧問の傘寿を祝う会

6月29日(日)に、岡山フルートの会の主催事業として、顧問の星島明郎先生の傘寿を祝う会を開催することになりました。星島先生は、岡山フルートの会を創設され、初代の会長として長らく会を導いてくださいました。先生のますますのご健康を祈念するとともに、今後も会の発展にご尽力いただくことをお願いするため、ささやかな宴を計画した次第です。多くの会員の皆さまのご出席をお待ちしております。詳細は別紙をご覧ください。

なお、ご出席の可否を、同封のハガキでお知らせください。また、記念品代としてご芳志の納入を希望される方は、同封の振込用紙をお使いください。ハガキと記念品代の納入の締切は6月10日(火)です。

#演奏会のアンケート集計結果へのコメント

3月23日(日)に開催した演奏会のアンケート結果を踏まえて、指揮者からコメントをいただきました。

1. ジュニア(熊瀬 好さん)

今回は、今までにない少人数(27人)での演奏となりましたが、一人ひとりが自分のパートを責任持ってしっかり吹いてくれて、指揮をしている私も思わず元気で楽しくなる演奏になったと思います。小・中・高・大学生までと年齢差がある合奏ですが、年齢関係なく本番に向けての練習の過程で、友達になり、協力し、教え合い、演奏会を通じて良い経験になっていると感じております。演奏会が終わった時のジュニアの子ども達の笑顔が最高のプレゼントでした。

2. ルミエール(藤澤桂子さん)

フルートの会演奏会ではお疲れ様でした。今回、ルミエールの選曲に関しては、参加者の方々より「良かった」との感想をいただけたようで安堵しています。限られた人数やレベルの相違、経験の差などもあり、選曲は大変悩むところでもあります。また、簡単そうな曲でもなかなか難しく、思うように吹けなかったりするものです。しかし、長期間の練習に出来る限り参加くださった毎週の積み上げが音楽全体を豊かにし、会場の方々にも届いたのではないかと思います。今後ともルミエールの発展にご協力いただきますようお願い申し上げます。

3. セレーナ(安達雅彦さん)

私は、セレーナの皆さんに多彩な音楽表現を期待しています。今回は特に「ウイーンの森の物語」では“柔軟なアタックとレガート”を、「スウィングで星条旗よ永遠なれ」では“強いアクセントとテヌートの組み合わせ”を求めました。三拍子(ウイーンの森の物語)では想定以上に苦戦しましたが、改めて単純な楽譜にこそ表現力が求められることを痛感しました。セレーナは今後も“シンプルな音符を豊かに表現するアンサンブル”を志向したいと思います。

4. アヴァンテ (岩崎範夫さん)

アヴァンテのアンケートに答えてくださった全員が参加して良かったとの結果は、大満足で、ホットしています。特に、バッハのモテットの歌詞からフレーズのイントネーションを決定し演奏する試みは、皆にとって新鮮な刺激を与えることが出来、諸田大輔先生の指導には大感謝です。田園は楽しんでもらえて、僕もハッピーです。よく練習してくれてありがとう。

(諸田大輔さん)

モテットをフルートで演奏することは、長年考えていた夢でした。バッハを演奏することは難しくもありますが、喜びや感動も多く得られます。演奏解釈について語ったり、指揮をしている間、このような音楽に触れられる幸せをかみしめていました。皆さんと一緒に時間を共有できた事は、本当に貴重な経験でした。ありがとうございました。

#星っさんコーナー(その 99)

「思い出の人」(その 5)「海軍軍楽隊と中村平先生」

顧問 星島明郎

「海軍軍楽隊―(日本洋楽史の原点)」(昭和 59 年 5 月 25 日発行)という本を読みました。300 ページに及ぶ素晴らしく立派な本です。その中に私の大学時代の恩師である中村平先生のことが大きく取り上げられており、懐かしさでいっぱいになりました。

さてこの本の内容ですが、我が国が洋楽を取り入れ、その発展していく歴史の中で海軍軍楽隊がいかに大きな貢献をしたかが手に取るようにわかる本でした。海軍軍楽隊は日本海軍の興隆とともに飛躍的に成長発展し、太平洋戦争の終結とともに 75 年にわたる歴史の幕を閉じたのでした。その中で私が一番感動した事実は、我が海軍軍楽隊は吹奏楽や行進曲ばかりやっていたのではなく、ヴァイオリンからチェロ・バスなどの弦楽器、そしてハープまで入れて本格的なオーケストラを演奏していたことでした。すでに明治時代から指導者にイギリス人のフェントンを、その次の指導者にはドイツ人のフランツ・エッケルトを招聘して、質の高いヨーロッパ音楽を習得させていったのです。大正時代になるとさらに高度の演奏技術を身につけた隊員たちによって積極的にクラシック曲の本邦初演を披露し好評を博していたようです。その曲目の例をあげると、ベートーヴェンの第 5・第 8・第 9 シンフォニーやピアノ協奏曲、ワーグナーの「タンホイザー」や「マイスタージンガー」、チャイコフスキーの「悲愴」、ロッシーニの「スターバト・マーテル」、ドヴォルザークの「新世界」、リムスキー・コルサコフの「シェヘラザード」等々。我が国洋楽の発展はまさに海軍軍楽隊によってなされたと言って良いでしょう。軍楽隊への入隊は非常に厳しく、その中で特に優秀な者は上野音楽学校(現在の東京芸術大学音楽学部)に委託生として派遣され、高度な音楽教育が施されたそうです。その学科の内容は弦楽器の修業のほか、声楽、音楽理論(和声学を含む)、音楽史、英語、作曲、指揮法、シンフォニーオーケストラ演奏など多岐にわたり、広く一般公開演奏にも積極的に参加して技量の向上に励んだそうです。又海軍は明治・大正時代から海外(北米主要都市、メキシコ、中南米、ヨーロッパ諸国はもとより、ハワイ、

タイ、ビルマ、マレー半島をはじめとする東南アジア諸国やオーストラリアなど)へも度々渡航して広く世界を視野に入れた交流や演奏旅行を行っており、これも海軍軍楽隊の目覚ましい発展に寄与していると思われます。

さて、冒頭に紹介した中村平先生ですが、この本の中に度々登場し、ご本人も「私の海軍軍楽隊史」と題して、軍楽隊長・軍楽少尉時代の堂々たる写真と共に詳しく寄稿されています。先生は1903年のお生まれですが、1920年(大正9年)17歳の若さで海軍軍楽兵を志願されたのです。当時軍楽隊への採用基準は非常に厳しく、体格、容貌、志操、学術、技芸、共に優れていることが合格の第一条件とされ、いかに志願者が多くても各県から1人宛だったようです。入隊後は厳しい訓練ののち第1トランペット奏者として活躍されました。勿論前述の上野音楽学校への委託生にも選ばれ、其処ではヴァイオリン奏法も修得されました。さらに特別研究員として学校に残り指導者としての勉強を深められ、その後軍楽隊長にまで登りつかれました。昭和20年、終戦によって除隊された後昭和27年から24年間、岡山大学教育学部非常勤講師(ヴァイオリン・管楽器・合奏)を勤められ、その後作陽音楽大学教授に就任されて昭和57年ご退職になり、平成9年94歳でお亡くなりになりました。又先生は岡山県吹奏楽連盟初代理事長として、昭和27年開催の第17回国民体育大会(岡山大会)の成功に大きく貢献されました。先生との思い出は数多くありますが、岡大入学時に1年間フルートのレッスンを受けました。何曲か見て頂きましたが、ヘンデルのフルートソナタでヴァイオリンを弾きながらの歌わせ方には、弦楽器ならではの独特のものがあって感銘したのを思い出します。又オーケストラの授業では、先生お得意のシューベルトの「未完成」や、モーツァルトの「ジュピター」(この曲のフルートパートは先輩が吹いていたので私はオーボエパートを吹かせて頂きました)で「もういっぺん、もういっぺん」と辛抱強く何度も繰り返し吹かされたのを懐かしく思い出します。失敗しても決して嫌な顔をされず、いつも温厚な優しさを感じるご指導ぶりでした。先生についてはまだまだ思い出があります。終戦後、先生は倉敷にお住まいになっており、ヴァイオリン教室を開きながら「倉敷シンフォニーオーケストラ」を結成して指導されていました。私は岡大の学生時代、先生のお誘いで参加させて頂いたことがあります。演奏曲目は正確には覚えていませんが、先生のお好きな「ジュピター」があったと思います。演奏会場は倉敷青陵高校の講堂で超満員のお客様でした。その時フルートを吹いていたのが当時高校生だった曾根勝さん(元村松フルートの副社長で現在岡山フルートの会特別会員)だったのです。高校生とは思えないほど素晴らしい音色で吹かれていました。曾根さんとはその時からのお付き合いですが、岡山県出身者には特別の思いを持たれており、後に私の生徒さんたちの面倒も親身になって見てくださった大恩人の一人です。このオーケストラはその後「倉敷交響楽団」と改名して大きく成長したのです。又先生は「倉敷ジュニアオーケストラ」の創設にも大きなお力添えを頂いたと聞いています。少しの間でしたが偉大な先生に指導して頂いたことを誇りに思っています。

(追記)

この本には、歴代海軍軍楽隊員の名簿も載っており、その中に私のフルートの師であり元NHK交響楽団の首席フルート奏者・国立音楽大学名誉教授の高橋安治先生や、トランペット奏者で中国短期大学教授・岡山県吹奏楽連盟の2代目理事長も勤められた福永信正先生の懐かしい名前もありました。そのほかにも関西交響楽団時代にお世話になった方々や、戦後日本音楽界の発展に中心的役割を果たされた人達の名前を多数見ることが出来ましたが、この度は紙面の都合で割愛させていただきます。尚「海軍軍楽隊」と双壁をなした「陸軍軍楽隊」についても、山口常光(元陸軍戸山学校軍楽隊長・戦後、警視庁初代隊長)著「陸軍軍楽隊」という本があるという事なので、是非読んでみたいと思っています。

#演奏会情報

♪5月コンサート

日時:5月29日(木)18:00 開演(17:45 開場)

会場:岡山大学北音楽棟 3 階ホール

入場料:無料

出演(FI):諸田大輔, 鹿間梢江, 高木啓輔, 文谷 真, 中村穂奈美, 布川 葵, 大賀美紀, 柴田真帆

曲目:J.S.バッハ/フルート 8 重奏によるモテット BWV225 他

お問合せ:090-9677-6832(諸田さん)

♪立石和美フルートリサイタル

日時:6月15日(日)14:00 開演(13:30 開場)

会場:岡山県立美術館ホール

入場料:一般/2,300 円(当日 2,500 円) 学生/1,800 円(当日 2,000 円)

出演:立石和美(FI)

曲目:ライネッケ/バラード, プロコフィエフ/ソナタ Op.94 他

お問合せ:080-1935-5644(立石さん)

♪倉敷管弦楽団 創立 40 周年記念 第 40 回定期演奏会

日時:6月29日(日)14:30 開演(14:00 開場)

会場:倉敷市民会館

入場料:一般/1,300 円(当日 1,500 円) 学生/1,000 円(当日 1,200 円)全席自由

出演(FI):小池かほる, 河村香織, 宮尾紀子

曲目:ドビュッシー(ビュッセル編)/小組曲, マーラー/交響曲第 5 番 嬰ハ短調

お問合せ:info@kurakan.org(倉敷管弦楽団)

#演奏会情報&チラシの会報への同封について【連絡先が変わっています】

演奏会情報は5月30日(金)までに谷川さん(会報係チーフ)に連絡してください。また、演奏会のチラシを会報封筒に同封・郵送(原則として奇数月のみ)を希望される場合は、A4 版はそのまま(A3 版は二つ折りにして)長谷川楽器店に持参してください。その際、必ず事前に会報係チーフに連絡し、会報発送数を確認してください。

会報係チーフ連絡先:qzb03677@nifty.com(谷川さん)

#チラシをホームページに掲載する方法について

演奏会のチラシを岡山フルートの会のホームページに掲載してほしい会員は、チラシを折らないでホームページ係チーフ(柴田さん)に郵送してください。なお、チラシを PDF 化できる会員につきましては、以下のアドレスにファイルを添付してお送りください。

ホームページ掲載用チラシ送付先:柴田 聡さん

〒703-8282 岡山市中区平井 1126-52 okayama-flute@mail.goo.ne.jp

【会報の封筒詰めのお知らせ】

7月号の会報の封筒詰めを、7月2日(火)午後7時から長谷川楽器店3階ホールで行います。会員の皆さまには、ぜひ、封筒詰めのお手伝いをお願いします。